

明德義塾中学校・高等学校

新シリーズ：「International Boarding School」で学ぶ 第9回

アカデミック・スキル教育への取り組み

広報入試部長 高橋 聖

高校においては既にエッセーの指導を、5パラグラフ・ライティングの指導を昨年度より導入し、論理的な思考をベースとした書く力を育む取り組みをスタートさせて来ましたが、本年度からは新たに、中学・高校・大学を通じて学習・学問をするために身に付けておくべき技術、アカデミック・スキルのトレーニングを、中学生を対象として導入することとなりました。

今回は本年度より中学で新たに導入されるアカデミック・スキル教育についてご紹介させていただきます。

導入の目的

欧米の現地校やインターナショナル・スクールでは、古くからアカデミック・スキル教育が様々なトレーニングの形をとり実践されていますが、日本では未だ馴染みが薄い取り組みではないかと思います。アカデミック・スキルとは日本語で「学習・学問をするための技術」、と言いあらわすことが出来ます。本校がアカデミック・スキル教育を導入する目的は、既存の縦割りの教科指導の枠組みの中では十分な指導が出来ていない学習・学問をするための技術指導（スキル・トレーニング）を実践することであり、学習・学問に対し、より効果的にアプローチすることを可能とする、具体的な技術を身に付けさせることにあります。

さて、学習者が学習・学問により有効にアプローチするためにはいくつかの基本的な技術を習得する必要があります。情報を収集する技術、文章を読み解く技術、情報をまとめ記録する技術、人に自分の考えを伝える、人と考えを共有する、人を説得する、それらに求められる話す技術、書く技術などですが、これら技術は持って生まれた才能ではなく、トレーニングで誰でも身に付ける、鍛えることの出来る技術ではないでしょうか。例えて言えば、野球部の生徒がランニングやキャッチボール、ゴロを捕る練習、素振りやティーバッティングを日々のトレーニングで積み重ねることで、野球するために必要な技術を身に付けることと同じです。そしてそれらの技術が未熟な場合、試合では良いプレーが出来ないと同様、学習・学問に対してより効果的なアプローチをする為には、学習・学問をする前に前もって身に付けておくべき学習技術があると考えます。既に本校入学時点において生徒が身に付けている学習技術を、系統的なトレーニングを通じて伸ばすことが必要と考えます。

具体的な取り組み

1. アカデミック・スキル特別講義の実施

明德義塾中では通常の授業とは別に集中講義としてアカデミック・スキル教育を実施します。国語、数学、英語、理科など、各教科学習を縦糸と捉えた場合、各教科で共通して求められる学習技術はスキル・トレーニングとして、横糸として位置づけられます。縦糸と横糸でもって良質の生地を織るかのごとく、教科学習とスキル・トレーニングが連携することで良質の学習環境を整えます。

さて、アカデミック・スキル教育は欧米においては国語教育の中で小学低学年より取り組まれています。その為、大学で学問をする上で不可欠な能力、研究をする能力や討論をする能力、そして論文を作成する能力は小・中・高と段階的にトレーニングを積む事で技術として習得出来るようにプログラムが組まれています。日本では系統立った取り組みは行われていませんでした。

さて、これは良いニュースですが、日本の新学習指導要領国語科において、言語技術の向上に着目した指導目標が発表されました。「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」これは国語科の指導目標です。いよいよ日本においても言語技術の向上を目指す取り組みがスタートします。アカデミック・スキルと言語技術、表現は異なりますがその教育の目指す先は同じだと思います。

もちろん、本校では国語科の取り組みを更に深度化、充実させることを目的とし、国語科と連携しつつ、学習・学問に対してより効果的なアプローチをする為の技術を習得する為のトレーニングを特別講義として実施します。